式　　辞

春の温かい日差しのもと、合瀬川の桜も見事に満開の花を咲かせる今日の良き日に、ＰＴＡ会長 村田　暁美　様を始めとして、ＰＴＡ役員の皆様のご臨席を賜り、保護者の皆様とともに、第四十三回愛知県立小牧南高等学校　入学式を挙行できますことを、高い席からではありますが、本校職員を代表し、厚くお礼申し上げます。

ただいま入学を許可しました　二百八十名の新入生の皆さん、本校への入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんの入学を心より歓迎いたします。また、今日のこの慶びの日を迎え、新入生の皆さんの感激はもとより、これまで細やかな愛情をもってはぐくんでこられました保護者の皆さま方にはお慶びも、ひとしおのことと推察し、心からお祝い申しあげます。

本校は昭和５５年に開校し、本年度創立４３年目を迎えます。創立当初から進学校として地域の信頼を築いてまいりました。卒業生も１万３千人を超え、各方面で活躍しています。

本校の校訓は「知(ち)・行(コウ)・恕(ジョ)」です。この言葉は、校歌の１番に「知のまこととともにもとめて」、２番に「行つよくともに研いて」、３番に「恕のこころともに探めて」と歌われています。

最初の二文字、知と行は、「知行合一」という言葉が由来となっています。この言葉の意味は、「知識と行為は一体である。知っているだけで実践しないのは本当の知とは言えない」という意味です。学んだことを即実行に移す、積極性を心に銘じてください。

　それでは三つ目の文字、「恕」とはどういう意味でしょうか。少し詳しくお話しします。中国古代の思想書『論語』の中で、儒家の始祖、孔子が「人が一生涯を通じて実践し続けられる大切な言葉は何ですか」と弟子に尋ねられ、「それは恕、思いやりだね。自分がされたくないことは人にしてはならない」と答えます。ここから恕とは一般に「思いやり」と言われます。ところで、恕が「生涯」実践し続けられるというわけは、人が「常に」他者との関係を持ちながら生きているからです。他者と良好な関係を保つには、毎日他者と接する中で、他者が喜ばない言動は思いやって避けてやり、自分がこうありたいと思うことを相手もできるようにしてやることです。では、他者が何を望み、何を嫌がるかについては、どうやって思いやるのか。恕の基盤には、自分と他者とは同じ人として共通している、自分を大切に思うのと同じように相手を思いやれば分かり合えるという人間性への信頼があるのです。対立と分断のはびこる今こそ、

校訓の三つ目、「恕」に深く共感を抱いてほしいと思います。

本校は、学問だけでなく、このように豊かな心を育てることを大事にする学校です。それは、心の伴わない学力が時代を切り開く力を持ちえないからですし、相手や第三者の立場に立って自らを批判的に振り返ることがなければ、いくら優れた頭脳の持ち主でも視野の狭窄、独善に陥るからです。部活動や地域貢献活動にも積極的に取り組み、文化芸術に親しみ、友と語り、他者を思いやる経験を重ねることで、自分自身の考え方や価値観の基礎を確立することが、これからの社会で活躍する者にとって不可欠なことです。これを前提として、本校では様々な教育活動を展開しています。皆さんが求める限り本校は質の高い教育を提供していきます。

今日から皆さんは、高校生として新しい歩みを始めます。高校３年間という、短い、しかし人間が最も成長するこの時期に何を学んだか、どれだけ努力したかが、将来の自分に直接つながります。このかけがえのない３年間は誰のものでもない、みなさん一人一人のものです。ですから何事も決して人任せにすることなく、取り組むべき事柄については、粘り強く最後まで貫徹しましょう。そして、やるからには「本気で」取り組んでください。適当に済ますのでは

なく、目の色を変えて何かに没頭することで、皆さんの奥底にある潜在力を目覚めさせてください。「本気でやればできないことはない」、そう念じて目の前の課題に一つ一つ全力で向き合ううちに、いつしかできないと思っていたことも楽々とクリアし、自分でも驚くほど大きく成長する、そんな牧南生に一人一人がなってほしいと思います。皆さんの、健闘を祈ります

最後になりましたが、保護者の皆さまに申しあげます。本日より、大切なお子様をお預かりすることになりました。お子様の教育、指導を、おひき受けしましたうえは、生徒一人一人の内に秘めた可能性を最大限に伸ばすべく、全職員が一丸となり、情熱と愛情、時には厳しさをもって、全力で教育活動を推進し、保護者並びに地域の皆様方の御期待に精一杯こたえていく所存であります。御家庭におかれましても本校の指導方針を御理解いただき、諭すべきところがあれば親として毅然と対応していただきますようお願いいたします。

本校のさらなる飛躍のために、格別の御理解と御支援を賜りますよう重ねてお願い申しあげ、式辞といたします。

令和四年四月六日

愛知県立小牧南高等学校長　　瀬尾　　学